

中下流部課題22. (環境)

現 状

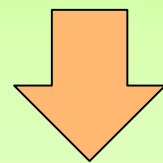
中流部では、ダムが、アユやかつて天然にみられたサツキマスやウツセミカジカ・カマキリなど回遊性魚類等の遡上・降下の障害となっている。

説明項目

①回遊魚の生息範囲

部会員からの意見

- (岩野)船明ダムの魚道が機能しているかどうか不安。全国では、近年は良い魚道ができている。
- (板井)ダムの建設によって本来の流水環境からかなりの流程において止水環境へと変化した。アユ・サツキマス・カマキリその他回遊性魚類のみならず純淡水魚類においても生息環境が分断され、上流への天然遡上が失われた。



天竜川中下流部の課題

- ・ 中流部らしい自然環境・景観
- ・ ダムなど横断工作物による魚類の遡上・降下の障害
- ・ ダムなど横断工作物による魚類の遡上・降下の障害

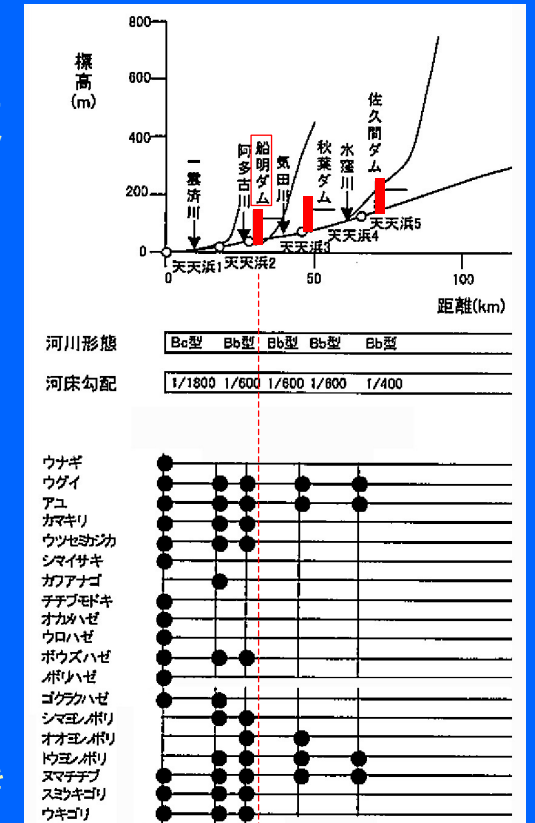
中下流部課題22. (環境)

① 回遊魚の生息範囲

中流部では、ダムが、アユやかつて天然にみられたサツキマスやウツセミカジカ・カマキリなど回遊性魚類等の遡上・降下の障害となっている。



* ウグイはマルタウグイを含む
アユは中流部への稚魚放流を実施している



出典:平成13.14年度河川水辺の国勢調査

中下流部課題23. (環境)

現状

中流部は、中央構造線の東縁にあたり地殻変動と火山活動によって生じた複雑な地形であることから「天竜奥三河国定公園」に指定されており、ブッポウソウやニホンカモシカ、アユ、スナヤツメが生息するなど、豊かな自然環境を有している。河川沿いの山地には「天竜美林」と称されるスギ・ヒノキ植林が広がり、景観の基をなしている。

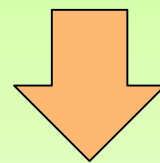
中流部の河道は、砂礫の広がる溪谷であったが、本川に佐久間ダムなどにより長大な湛水域が形成され、現在は、ダム天端からの眺望、ダム湖面に映る森林等が特徴的な景観となっている。なお、支川気田川等の合流点付近は、本来の溪谷の自然環境・景観を残している。

説明項目

- ①中流部河道の特徴
- ②鳥獣保護区
- ③中流部の特徴的な景観

部会員からの意見

- (杉山)河川というのは美しい景観を持っているべきものであるということを盛り込む必要がある。
 (岩野)(ダム建設の影響で)河床の変化、河床低下、河床礫の大きさが変わり、魚類が減少した。



天竜川中下流部の課題

- ・中流部らしい自然環境・景観
- ・中流部らしい自然環境・景観
- ・中流部らしい自然環境・景観

中下流部課題23. (環境)

① 中流部河道の特徴

- ・山間部であり、河川周辺はスギ・ヒノキ植林などの森林植生
- ・30kmから上流には船明ダム、秋葉ダム、佐久間ダムの3つのダムがあり、区間の多くが湛水域
- ・横山橋から64.4km付近までと原田橋から上流の区間は天竜奥三河国定公園
- ・28.5~37kmは鳥獣保護区(船明ダム湖)に指定



② 鳥獣保護区

天竜川中・下流部では、4箇所が鳥獣保護区に指定されている

図番:名称	設定区分	面積(ha)
①東海自然歩道竜山鳥獣保護区	森林鳥獣生息地	659
②船明ダム湖鳥獣保護区	集団渡来地	272
③二俣小学校鳥獣保護区	集団渡来地	24
④天竜川以西遠州灘鳥獣保護区	集団渡来地	3,219

出典: 静岡県資料

③ 中流部の特徴的な景観



① 気田川橋から上流方向(40km付近)



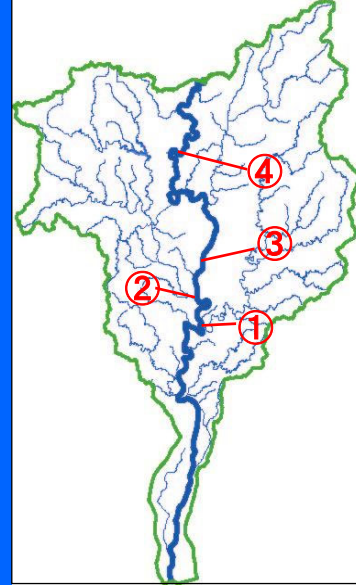
② 秋葉ダム湖(47km付近)



③ 瀬尻橋から上流方向(53.5km付近)



④ 佐久間ダム湖(72km付近)



位置図

中下流部課題24. (環境)

現 状

下流部では、流路が固定化し、比較的安定した瀬・淵が形成された。この結果、固定化した州にヤナギ等の樹林化が進行している。

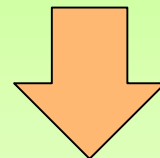
説明項目

①流路・州の固定化と樹林化の進行

部会員からの意見

(辻本) 治水上余裕のある箇所では環境を保全しやすいが、ネックとなる場所をどのように保全するかについては、整備計画立案上のポイントとなる。

(板井) 河川の生態学的な観点からは、中下流部では瀬と淵は蛇行点に一個ずつあるのがふさわしい。水衝部に水制や護岸をおいて川岸の破壊を未然に防止することはある程度やむを得ないが、淵から瀬へと河床型が変化するほどまで行うのは、工事の近自然化と逆行するものである。やむを得ず施行したものでも、短期的には河床が安定している場合でも、長期的な視点での方策をも同時に模索すべきであり、その方向は「近自然」といえる。



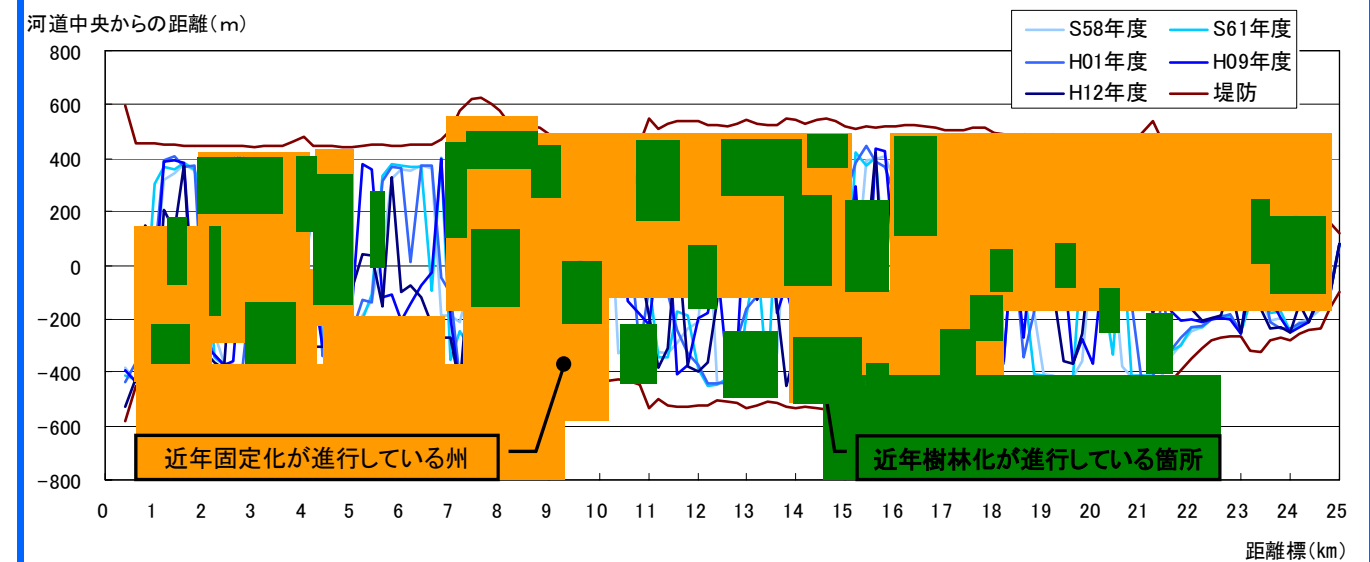
天竜川中下流部の課題

- ・ 下流部らしい自然環境・景観
- ・ 州、淵の固定化、樹林化の進行
- ・ 州、淵の固定化、樹林化の進行

中下流部課題24. (環境)

① 流路・州の固定化と樹林化の進行

過去20年間の流路の変化を見ると、下流部では、固定化が進行する砂州が多く存在し、固定化した州では、樹林化が進行している箇所が見られる



過去約20年間の流路の変化と砂州および樹林地の分布

現状

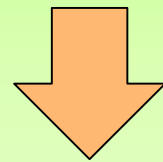
下流部においては、砂礫主体の河原を営巣地とするコアジサシや、砂礫地に生育する植物を好むツマグロキチョウ、ミヤマシジミ、魚類ではアユ、カワバタモロコ、ウツセミカジカ、カマキリ、イシカワシラウオが確認され、州の固定化により生じたワンドやたまり等の静水域ではミクリ、湿地ではタコノアシなどの貴重種、樹林地ではコムラサキが確認されている。

説明項目

- ①下流部河道の特徴
- ②砂礫地を好む動物
- ③静水域や湿地に生育する植物
- ④樹林(ヤナギ)を好む動物

部会員からの意見

(杉山)新河川法では自然を重要視するようになった。また生物多様性国家戦略や、自然再生推進法が成立し、省庁も生物の多様性に積極的にかかわることが義務づけられた。



天竜川中下流部の課題

- ・ 下流部らしい自然環境・景観
- ・ 下流部で生息生育する貴重種等
- ・ 下流部で生息生育する貴重種等

① 下流部河道の特徴

下流部では、河原に営巣するコアジサシや、砂礫地の植物を好むツマグロキチョウ、ミヤマシジミ、魚類ではアユ、カワバタモロコ、ウツセミカジカ、カマキリ、イシカワシラウオが確認され、ワンドやたまり等の静水域ではミクリ、湿地ではタコノアシなどの貴重種、樹林地ではコムラサキが確認されている



② 砂礫地を好む動物

コアジサシについて

大きな川の中州や海岸の砂礫地等で集団で営巣するコアジサシは、草原化や河川敷に侵入する二輪車・四輪車の影響等により生息場が影響を受けている。本川では、掛塚橋上流～第2東名天竜川橋の間で継続的に繁殖。



ミヤマシジミについて

ミヤマシジミは、河原の砂礫地に生息する。幼虫の餌となるコマツナギ(小低木)はスキヤクズなどの植物に被圧されると消滅するため、これらが進入することなく、かつコマツナギの生育地が破壊されない程度の冠水頻度の低い砂礫州が本種の生息条件。



ツマグロキチョウについて

ツマグロキチョウの食草は、マメ科植物のカワラケツメイに限定されている。このため、生息環境はカワラケツメイの見られる河原や荒地などの草原環境に限られている。

ミヤマシジミ (左) とツマグロキチョウ (右) 久保田繁男氏 提供

③ 静水域や湿地に生育する植物

○ 静水域や湿地に貴重種が生育

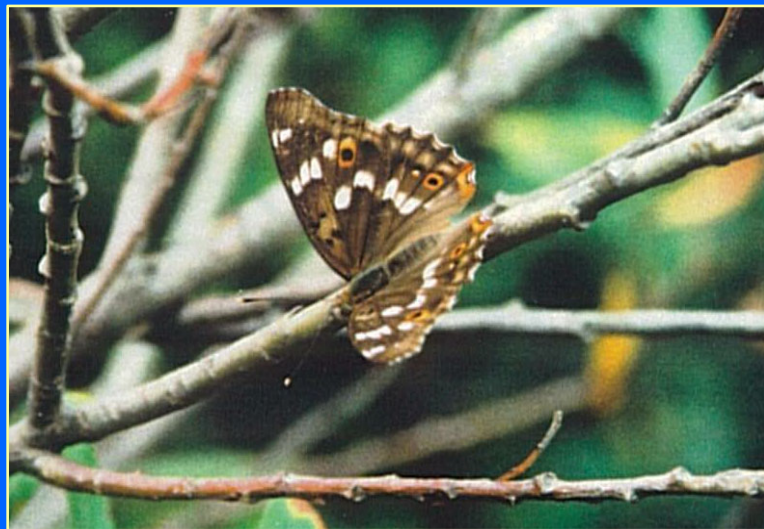


下流部に生育するミクリ(左)とタコノアシ(右)

④ 樹林(ヤナギ)を好む動物

コムラサキについて

コムラサキは、河川のヤナギ林に生息し、幼虫はヤナギの葉のみを食べ、成虫はヤナギの樹液に集まる習性がある。



コムラサキ

現 状

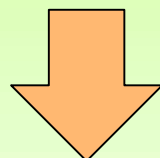
下流部本来の自然環境・景観は、流路が洪水の度に移動して形成された砂礫主体の「白い河原」が広がり、植生の少ない状態であったが、近年は樹林化が進行し、安間川等の支川合流点付近にはワンド状の静水域や湿地などの新たな自然環境・景観が形成され、本来の砂礫主体の河原が減少している。

説明項目

- ①樹林化の進行
- ②下流部の特徴的な景観

部会員からの意見

- (神谷) (河道内樹林について)無秩序に緑地が増えている。景観はあまりよくない。
- (神谷) 子供の頃(40年くらい前)天竜川の河原は(砂礫で)白かったが、現在は白い河原がない。
- (岩野) アユ資源減少の原因を究明するため、国土交通省や県、利水者、流域の漁民等が連携し情報の共有化をすべきである。魚道に関する調査も望まれる。
- (山口) (水量に関する議論は)川やダムで把握されている表流水のみで伏流水の量の把握について議論されたことがない。安間川では天竜川が供給する伏流水が豊富なため生物が豊かでミクリがたくさん繁茂している。水の議論では、(表流水だけでなく)伏流水や水田のあり方を含め水の問題を考える必要がある。
- (板井) 生態系全体として質が低下してきているが、このような川の現状は昔から連綿と続いてきた人間の関わりの結果である。今後の河川整備計画では、人間による河川整備を求めるのではなく、自然的な方向、昔あった自然に戻すような方向への整備を目指すべきである。



天竜川中下流部の課題

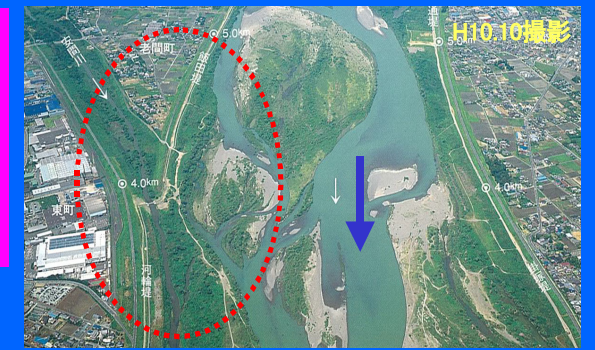
- ・下流部らしい自然環境・景観
- ・下流部らしい自然環境・景観
- ・下流部らしい自然環境・景観

① 樹林化の進行

樹林地が安定化することで、多くの生物の生育・生息の場となっている。

安間川合流部の樹林地

安間川合流部は、かつては水衝部で樹林がなかったが、近年河床の安定化により樹林化が進行している。



② 下流部の特徴的な景観

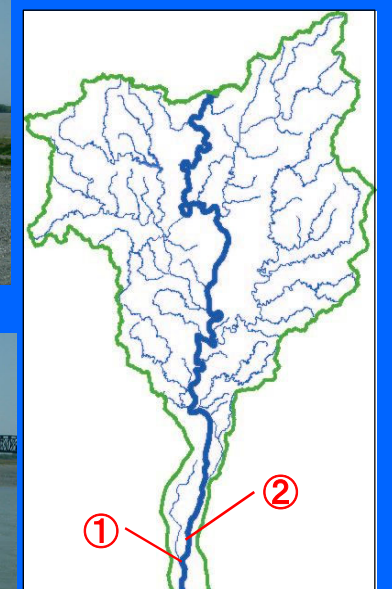
7.0km～8.0km付近には、下流部らしい白い河原が残る



①7.0km付近(右岸から左岸方向)



② 8.0km付近(右岸から左岸方向)



位置図